

December 2021

株主通信

Vol.105

目次

株主の皆様へ	P.01
2021年度上期 決算ハイライト	P.02
セグメント別概況	P.03
[特集] 「富士フィルムグループの未来を創る」 新社長インタビュー	P.04
富士フィルムグループトピックス	P.06
投資家インフォメーション	P.08

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2021年度上期の当社業績は、売上高1兆2,051億円（前年同期比20.8%増）、営業利益1,079億円（前年同期比91.0%増）の増収増益となりました。当社株主帰属四半期純利益は、963億円と上期の過去最高益を達成いたしました。

株主還元について、2021年度中間期の配当金は、1株当たり55円といたしました。期末配当金も同様に1株当たり55円を予定、年間配当金は1株当たり110円で12期連続増配の予定です。

当社は、今年度より「ヘルスケア・高機能材料事業の成長加速」と「持続的な成長を可能とする更に強靱な事業基盤の構築」を骨子とする3カ年の中期経営計画「VISION2023」をスタートさせ、富士フィルムの今後の成長を実現するための、活発な研究開発・設備投資を進めています。

力強い成長を遂げているバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託事業を更に拡大するため、欧米拠点に新たに総額約900億円の大型設備投資を決定しました。主に、最先端医療分野の遺伝子治療薬や新型コロナウイルス感染症のワクチンなどのバイオ医薬品の原薬生産能力の大幅増強を目的としたもので、今後の市場成長を先取りする戦略的な投資であります。ヘルスケアは、当社の先進的なバイオ関連技術、生産プロセスにかかわるエンジニアリング技術、画像処理及びAI/IT技術等を駆使して、社会課題の解決を図る成長領域です。医療ITを核としてCT/MRIや内視鏡、超音波診断装置、IVD（体外診断）など幅広い製品ラインアップを持つ医療システムと、成長著しいバイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託や創薬支援、医薬品などを展開するライフサイエンスで更なる事業拡大を図っていきます。

事業成長の原動力として、特に注力しているのがデジタル



代表取締役社長・CEO 後藤 禎一

トランスフォーメーション（DX）です。医療用X線フィルムから始まったメディカルシステム事業が、ITを核としてその事業を大きく拡大させてきたように、全ての事業領域でDXによる高収益ビジネスモデルを構築していきます。7月にはDXの更なる推進により、社会課題の解決に向けた挑戦を続けることをコミットすべく、富士フィルムグループの「DXビジョン」を新たに策定し、私がプログラムディレクターとして、グループ全社でDXに取り組む「All-Fujifilm DX推進プログラム」を始動させました。一人ひとりが飛躍的に生産性を高めることにより生み出される優れた製品・サービスを通じて、イノベーターなお客さま体験の創出と社会課題の解決に貢献し続けます。

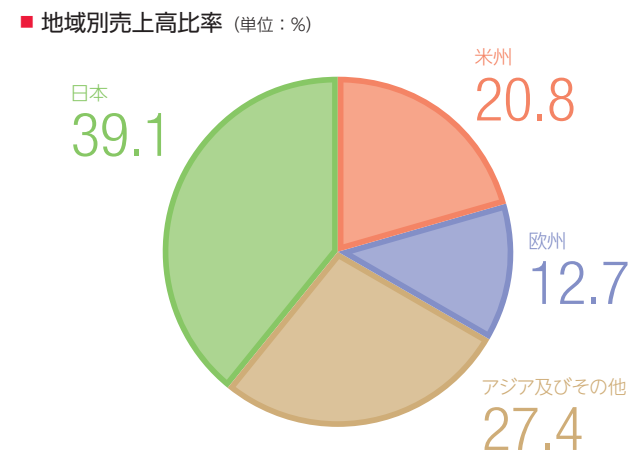
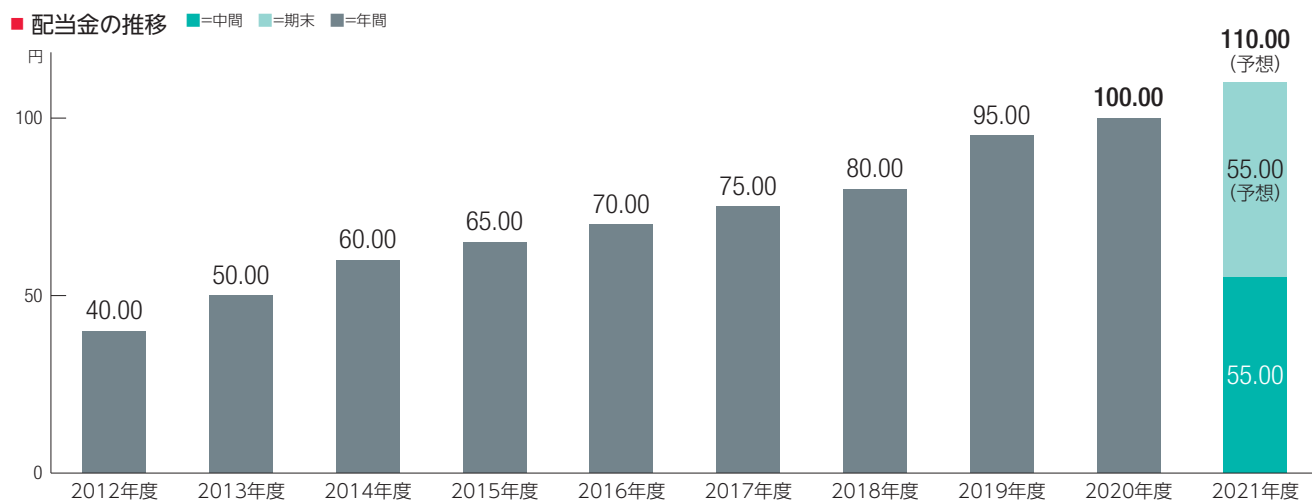
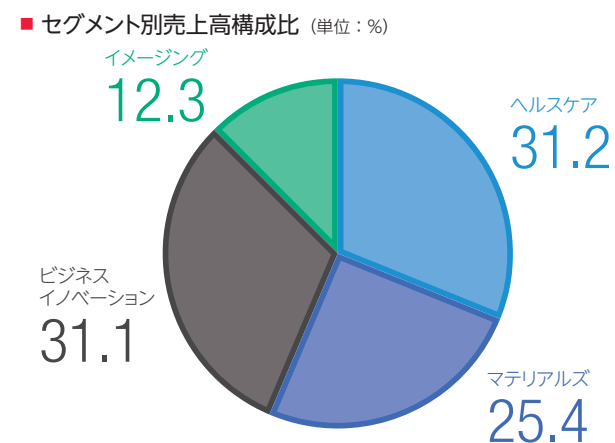
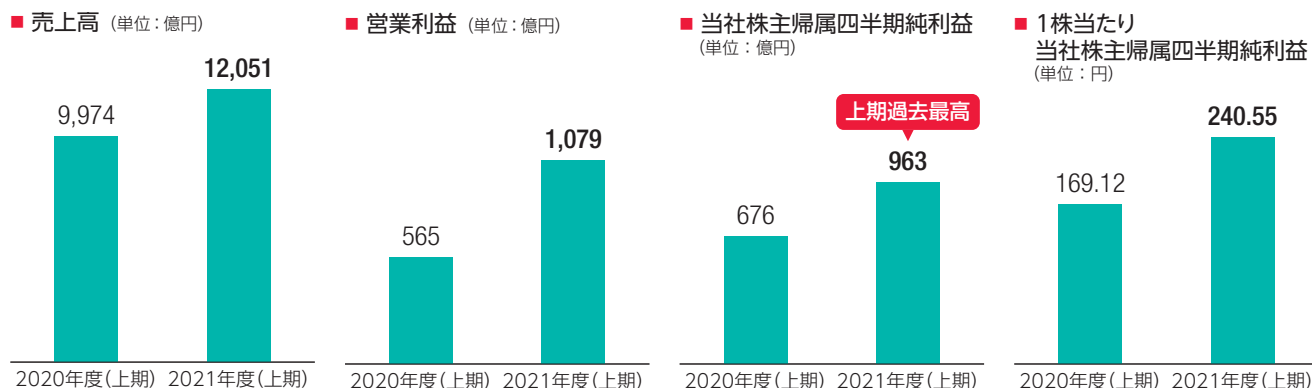
当社は歩みを止めることなく、NEVER STOPで施策を進め、更なる成長と変革にチャレンジし、「VISION2023」の目標達成に向け、取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年12月

2021年度上期 決算ハイライト

昨年度の新型コロナウイルス感染症の流行拡大影響からの順調な回復に加えて、特にヘルスケア及び電子材料での成長も実現し、売上高は前年同期比20.8%増、営業利益は前年同期比91.0%増と大幅な増収・増益を達成しました。当社株主帰属四半期純利益は前年同期比42.4%増で上期の過去最高益を更新しました。



詳細な財務情報は、当社ウェブサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

アドレスはこちら > <https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>



セグメント別概況

ヘルスケア

メディカルシステム
バイオCDMO
ライフサイエンス
(ライフサイエンス、医薬品、
コンシューマーヘルスケア)



■ 売上高
3,756億円

前年同期比

51.4%増 ↑

■ 営業利益
470億円

前年同期比

2.5倍 ↑

メディカルシステムは、富士フィルムヘルスケアの連結子会社化の寄与に加えて、肺炎診断に有用な超軽量移動型デジタルX線撮影装置や、超音波画像診断装置の需要継続、内視鏡も好調。バイオCDMOは、バイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託の好調に加え、新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与。ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用途の培地販売などが好調。サプリメントの好調に加え、化粧品の新製品も堅調に推移。

マテリアルズ

電子材料
ディスプレイ材料
他高機能材料
(産業機材、ファインケミカル、
記録メディア)
グラフィックコミュニケーション
(グラフィックコミュニケーション、
インクジェット)



■ 売上高
3,064億円

前年同期比

13.0%増 ↑

■ 営業利益
392億円

前年同期比

46.7%増 ↑

電子材料は、半導体需要増に伴い、幅広い製品群で販売が好調。ディスプレイ材料は、モニター、タブレット及びテレビの需要増、スマートフォンの堅調な需要を受け、高機能フィルム製品の販売が好調。グラフィックコミュニケーションは、オンライン商談の積極活用で販売伸長。産業用インクジェットヘッドの販売が欧州、中国の建材印刷市場での需要増により好調に推移。

ビジネスイノベーション

オフィスソリューション
ビジネスソリューション



■ 売上高
3,748億円

前年同期比

2.9%増 ↑

■ 営業利益
255億円

前年同期比

11.3%減 ↓

オフィスソリューションは、アジアパシフィック地域でのロックダウンや半導体等の部品供給の逼迫による一時的な機器の供給・設置遅延の影響を受けながらも、消耗品売上上の回復などにより増収。ビジネスソリューションは、国内で自治体向けビジネスの獲得、海外を中心にドキュメントのデジタル化に貢献するBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）が好調。

イメージング

コンシューマーイメージング
プロフェッショナルイメージング



■ 売上高
1,483億円

前年同期比

30.2%増 ↑

■ 営業利益
124億円

前年同期比

黒字化 ↑

インスタントカメラ「instax mini 11」やスマートフォン用プリンター「instax mini Link」に加え、新製品「instax mini 40」のクラシックなカメラデザインが市場で高評価を受け販売好調。ラージフォーマットによる最高画質を小型ボディで楽しめるミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」が世界各地で高い評価を受け、新規ユーザーを取り込み、販売好調が継続。

「富士フィルムグループの未来を創る」 新社長インタビュー

2021年6月、当社代表取締役社長・CEOに就任した^{ごとうていいち}後藤禎一は、「富士フィルムグループの未来を創る」と宣言。その実現に向けた課題として、「ヘルスケアを核とした事業拡大の加速」「デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速」「世界で活躍できる人材の育成」の3つを挙げました。

この3つの課題にCEOとしてどのように取り組んでいくかを中心に今の思いを語ってもらいました。

最初に、株主の皆様にごこれまでの経験など、自己紹介をお願いします。

私は1983年に富士フィルムに入社し、まず日本で写真フィルムの営業を担当しました。1994年に35歳でベトナムに赴任して事務所を立ち上げたのが、17年にわたる海外駐在の始まりでした。現地という言葉はもとより、貿易業務の経験もない中、営業だけでなく、経理や人材採用、広告・宣伝、のちには加工場の建設までを全て担いました。様々なことを一人で判断しなければならず、

ベトナム赴任時の一枚

当初は戸惑いもありましたが、全身全霊で考え抜き、腹を据えて決断を繰り返したこの日々が、現在の自分につながっていると感じています。その後シンガポールに移り、インド・パキスタン・バングラデシュ・インドネシア・ネパール・スリランカ各国でイメージング、メディカルシステム、グラフィックシステムなど当社の全ての事業を担当しました。国ごとに言語や習慣、文化は異なりましたが、それらの違いを超えて、ビジネスは「人対人」だ、という本質的な気づきを得たのもこの時期の収穫でした。2003年に中国に異動し、2008年からは中国で医療機器の販売会社のトップとして中国における現在のメディカルシステム事業の基盤を築きました。2011年に帰国して2013年から本年の社長就任までメディカルシステム事業部長を務めました。事業部長に就任した時に描いた、ITを中心に置いた事業成長の構想をほぼ実現させることができたと考えています。

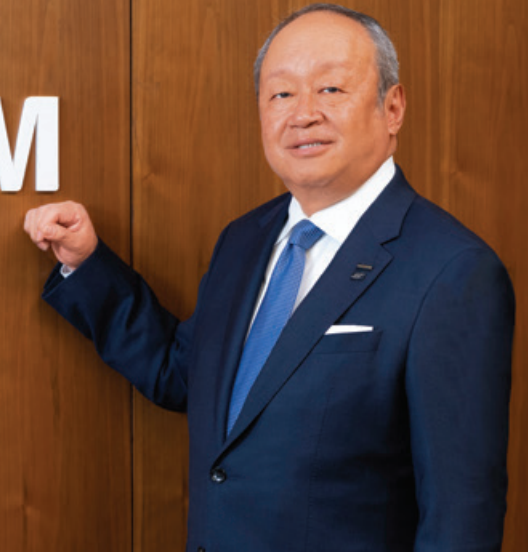
雪国・富山育ちの私の持ち味は粘り強さで、思ったことは最後までやり抜くところが長所だと思っています。また、営業現場を長く経験し、事業を率いてきた経験から「現場」「現物」「現実」の三現主義を大切にしています。本質は現場

FUJIFILM

代表取締役社長・CEO

後藤 禎一

1983年 4月 当社入社
2016年 11月 富士フィルム株式会社 取締役
2018年 6月 当社取締役
2021年 6月 当社代表取締役社長・CEO
富士フィルム株式会社
代表取締役社長・CEO



に宿るのです。従業員にも、机上ではなく、「生産の現場をしっかりと見る」、「営業の現場で相手に直接会って課題を解決する」ことが大事だ、という考えをいつも伝えていきます。

次にヘルスケアの成長戦略について聞かせてください。

メディカルシステム事業においては、新たにグループに迎えた富士フィルムヘルスケアのCTやMRIに、当社の強みである医療ITを組み合わせる新たな価値を創造し、シナジーを高めて成長を加速していきます。医療、中でも診断にかかわる分野は当社の得意とする画像処理技術やAI技術の応用が事業成長のキーとなります。ここが注力のポイントです。

バイオ医薬品の生産プロセス開発・製造受託（CDMO）事業においては、①開発・製造期間の短縮に貢献する高生産性技術に対するお客様からの高い信頼②抗体医薬品や遺伝子治療薬、ワクチンなど幅広いバイオ医薬品に、小量生産から大量生産まで対応できる能力③原薬から製剤・包装までの一貫製造体制、などの特長が他社と差別化できる強みです。現在の欧米4拠点*に加え、新たにボストン

*4拠点 米国（ノースカロライナ州・テキサス州）、英国（ビリンガム州）、デンマーク（ヒルロッド市）

にも遺伝子治療薬の開発・原薬製造拠点を年内に開設予定です。現像するまで品質を確かめることのできない写真フィルムを祖業とする当社には、お客様に「信頼」を買っていただくという「品質を重視するDNA」が現在も脈々と流れています。この企業文化が、バイオ医薬品の製造という、「厳密なプロセスコントロール」と「高い品質」が求められるCDMO事業を展開するにあたり、極めて重要な素養となっています。将来にわたって大きく成長させていくこの分野には、これまで合計約6,000億円の投資を決断しています。バイオCDMOという急成長産業で、世界トップグループのシェアを有する本事業を継続的に大きく成長させていきます。

デジタルトランスフォーメーション(DX)を更に加速させるためには、どのような取り組みが必要でしょうか？

本年7月に社会課題の解決に挑戦し続けることをコミットする「DXビジョン」を策定し、「All-Fujifilm DX推進プログラム」を始動させました。私が社長として陣頭指揮を執り、DXによって、製品・サービス、そして業務プロセスに変革をもたらし、顧客の体験が変わるような画期的なビジネスモデルを新たに創造します。

メディカルシステム事業が、ITを強みとして世界的にシェアを拡大し、AI技術を活用して医師の画像診断を支援する様々な製品・サービスを提供してきたことを良き事例として、こうした取り組みを全ての事業領域で更に加速させ、社会課題の解決に貢献していきます。

人材育成についてはいかがでしょうか。

私の海外駐在中にはアジア通貨危機、米国の同時多発テロ、SARS流行、リーマンショックなど、過酷な出来事が

次々と起き、ビジネスを進めるうえで大変苦労しました。しかし、その時々には駐在していた国で、自分自身が一つの事象に責任をもって決断し、富士フィルムを代表してステークホルダーに説明する、説得する。そうしたタフアサインメントを乗り越えたことで成長したと感じます。

最初に赴任したベトナムで、海外事業を展開するという、そして文化・民族の違いを理解したつもりでしたが、続くシンガポールで担当した6つの国それぞれでの大きな違いは、理解したつもりになっていた自分の想像を更に超えたものでした。そこで学んだのは、ビジネスは最終的に「人対人」だということです。相手の環境や文化を理解し、多様性を受け入れないとビジネスはできない。多様性を認めようとして、人と人とのつながりの中で真剣に紡いでいくもの、言語や文化の差異を超えた、本質的な個と個の勝負なのです。

また、グローバル企業であっても、規模の小さな現地法人を経営する中で、お金を回すのは本当に大変でした。在庫を減らし、売った代金はすぐに回収しないと従業員の給料が払えない、という具合に追い詰められたこともありました。しかし、お金の工面や人の採用などありとあらゆることを経験したことで、若いうちから経営の能力を身につけることができたのも事実です。ですから、将来を担う若手人材にはぜひ海外で様々な経験を重ね、大きく成長してほしいと思っています。

最後に、抱負、決意を聞かせてください。

「ゴーイングコンサーン」、つまり企業の永続的な存続、会社を残すことが経営者の重要な責任だということです。これまでの経営陣が20年かけて事業を入れ替え、種をまいて水をやり続けた結果、グループの事業全体を再び

上昇トレンドに向かわせることができました。過去の積み重ねがいま花開いているわけですが、刈り取るだけではだめで、引き続き苗を植えて、水をやり、つぼみを花に開かせないといけません。絶えず「NEVER STOP」の精神で研究開発の手を緩めず、汗をかき続け、10年後に「あの時にあのような決断をして良かった」と振り返ることのできる経営を続けていきます。

そのためには「感性」と「嗅覚」が必要です。「現場」「現物」「現実」を自分の目で見て、決断していきたい。

私が理想とする企業像は、当社グループがこれまでもそうであったように、社会課題の解決と事業の成長を両立させ、社会から存在を認められ、評価されることで従業員が誇りを持って働けるような会社です。長年にわたって培ってきたこの企業文化を、私はこれからも進化させ大切に守っていきます。



富士フィルムグループ トピックス

富士フィルム直営写真店 「WONDER PHOTO SHOP」 表参道に移転オープン

2021年10月、富士フィルムの直営写真店「WONDER PHOTO SHOP」が東京・表参道に移転し、リニューアルオープンしました。新しい店舗では、レンズ付フィルム「写ルンです」やフィルムカメラで撮影したネガフィルムの現像・デジタルデータ渡しの即日対応といった新たなサービスを提供します。直接スマートフォンにダウンロードでき、すぐにSNSで写真を共有して楽しむことができます。

近年、スマートフォンで簡単に写真が撮れる時代だからこそ、撮ったその場でプリントできるinstax“チェキ”や、現像するまで仕上がりが分からない「写ルンです」が流行しています。一方、スマートフォンでは撮影できない高画質な写真を求めて、高級デジタルカメラで撮影をする方が増えています。

こうした時代のニーズにお応えしようと、新店舗では撮影からプリントまでをカバーする幅広い製品やサービス、当社のミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」の体験コーナーなどをワンフロアで展開しています。時代にマッチした新たな写真の楽しみ方を提案していきます。人との触れあいが難しい今だからこそ、たくさんの人を笑顔にしてくれる「写真のチカラ」を、生まれ変わった「WONDER PHOTO SHOP」でぜひ体感してください。



スマートフォン用プリンター“チェキ”

インスタックス リンク ワイド ブラック
「instax Link WIDE」、ワイドフィルム「BLACK」新発売

スマートフォンで撮影した画像を、通常のカードサイズのチェキプリントの2倍の大きさにプリントでき、集合写真や風景写真などでお楽しみいただけます。専用アプリで、音や文字をQRコード化して撮影画像へ組み込んでプリントできます。小型軽量で持ち運びも自由。写真を引き立てクールな印象を与える黒フレームのワイドフィルムもぜひお試しください。



「写真のチカラ」を多くの方に感じていただきたい。

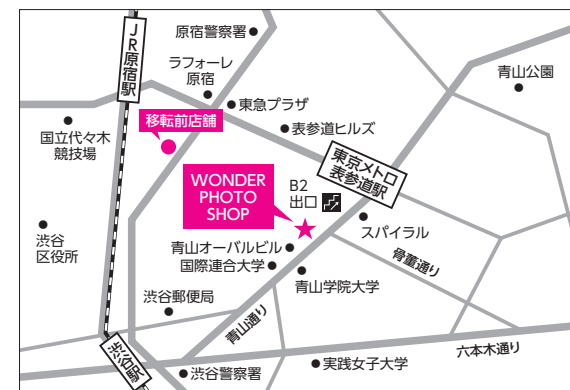
新しい「WONDER PHOTO SHOP」は、東京メトロ表参道駅から徒歩3分と便利な場所にあり、写真関連の多彩な製品やサービスを体験いただけます。「GFX・Xシリーズ」体験コーナーでは、撮影のポイントやおすすめのプリント方法などをアドバイスいたします。また、スタジオでは、証明写真のほか、仲間とのポートレートが簡単にセルフ撮影できます。ぜひ気軽にお立ち寄りいただき、写真の楽しさに触れてください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。



WONDER PHOTO SHOP店長
鎮西 洋

アクセス

住所：東京都渋谷区神宮前5-51-8 ラ・ポルト青山 1F
交通：東京メトロ半蔵門線/千代田線「表参道」駅 B2出口から徒歩3分



ラージフォーマットセンサー^{※1}採用
ミラーレスデジタルカメラ
[FUJIFILM GFX50S II]新発売



ラージフォーマットセンサーならではの豊かな階調表現や美しいボケ味を生かした超高画質な写真撮影を、より多くの方にお楽しみいただけるデジタルカメラです。約900g^{※2}の小型軽量ボディに、約5,140万画素センサーや強力な手ブレ補正機構を搭載、高性能AFも備えており、圧倒的な機動力を発揮します。

※1 対角線の長さが55mm（横43.8mm×縦32.9mm）で、35mm判の約1.7倍の面積を持つイメージセンサー。
※2 付属バッテリー、メモリーカードを含む。

高画質、高速・高精度AFを実現する
ミラーレスデジタルカメラ
[FUJIFILM X-T30 II]新発売



従来モデル[FUJIFILM X-T30]で好評の小型軽量ボディはそのままに、ソフトウェアを刷新し、Xシリーズの代表上位機「FUJIFILM X-T4」と同等の高画質や高速・高精度AFを実現しました。従来モデルより解像度が高い162万ドットの背面液晶モニターを採用するなどハードウェアも進化し、ハイクオリティな静止画撮影のみならず、4K/30Pの本格的な動画撮影を快適にお楽しみいただけます。

化粧水・美容液・乳液・クリームの4つの役割を持つ
高保湿持続ジェル^{※1}「アスタリフト オプミー」新発売

「アスタリフト オプミー」は肌にうるおいをじ込めてキープしながら、みずみずしいジェルが、べたつかずに心地よく肌になじみ、1品でスキンケアが完了します。無香料・無着色・アルコールフリーのため、別のスキンケアアイテムと併用しても香りを邪魔することなくお使いいただけます。



※1 高保湿持続は当社比。

「QRコードリーダー」や「シャッフルプリント」など新機能を搭載
「かんたん」「あんしん」「たのしい」機能を充実させた「マルチコピー機」へ刷新



全国のセブン-イレブン店舗に設置しているマルチコピー機をさらに簡単・便利にお使いいただけるモデルに順次入れ替えを行っています。コンビニエンスストアのマルチコピー機として初めて「シャッフルプリント」の提供を開始しました。複数の写真を一枚の写真にレイアウトし、お気に入りの一枚としてプリントする楽しみ方を提案します。また「QRコードリーダー」の新搭載で、Wi-Fi接続がしやすくなりプリントがより簡単に。さらに操作画面の刷新や、本体の高さを低くし、操作画面の角度を最適化するなど、車いすの方でも安心して利用できるデザインとしました。その他にも2Lサイズのプリントや、インクジェット紙郵便はがきでの利用も可能になるなど、これからも様々な場面でお客様のプリントニーズにお応えしてまいります。

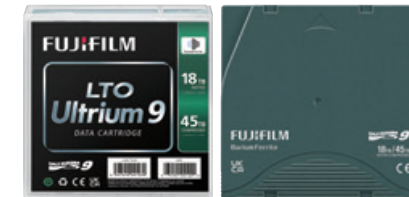
データ保管時の消費電力によるCO₂排出量を大幅に削減^{※1}
従来比1.5倍の最大記録容量45TBを実現[FUJIFILM LTO Ultrium9 データカートリッジ]新発売

磁気テープは、大容量データを低コストで安全に長期保管できることに加え、データの保管時に常時通電する必要がないことから、ハードディスクドライブ (HDD) に比べてデータ保管において発生するCO₂の排出量を95%削減でき^{※2}、環境負荷を大幅に低減する製品として注目されています。

「FUJIFILM LTO Ultrium9データカートリッジ」で実現した高容量化は、IoT・DXの進展に伴い急増するデータストレージ需要にお応えするとともに、世界的に対応が急務となっているCO₂排出削減に貢献します。

また、ネットワークから隔離した状態でデータ保管が可能であるため、サイバーアタックなどによるデータ破損・消失のリスクが低く抑えられます。このように大容

量データを低コストで安全に長期保管できることから、磁気テープは大手データセンターや研究機関などで長年にわたり利用されており、今後も利用拡大が見込まれています。



Linear Tape-Open, LTO, LTOロゴ、UltriumおよびUltriumロゴは、Hewlett Packard Enterprise社、IBM社およびQuantum社の米国およびその他の国における登録商標です。

※1 出典：Brad Johns Consulting, LLC "Improving Information Technology Sustainability with Modern Tape Storage"
※2 100PB（ペタバイト）のデータを10年間HDDに保管した場合と磁気テープに保管した場合を比較し、保管で発生するCO₂の排出量を95%（約2,400t）削減できます。（出典：Brad Johns Consulting, LLC "Improving Information Technology Sustainability with Modern Tape Storage"）



統合報告書
サステナビリティレポート SVPストーリー編
サステナビリティレポート マネジメント編

統合報告書は、重要度が高い財務情報・非財務情報を中心に、成長戦略などを掲載しています。「富士フィルムグループが目指す姿をお伝えし、共感いただく」ことを基本コンセプトとし、統合報告書と「サステナビリティレポートSVPストーリー編」を連動させて、富士フィルムグループの持続的な成長を目指した取り組みを紹介しています。ぜひあわせてご覧ください。

統合報告書

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>



サステナビリティレポート

<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability>



投資家インフォメーション

株主優待のお知らせ (基準日: 2021年9月30日)

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、当社グループのビジネスを知っていただくことにより、長期的に保有していただくことを目的とした株主優待制度を設けています。

- **単元株(100株)以上保有の株主様**
当社ヘルスケア製品 優待価格販売
- **1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様**
当社フォトブック等プリントサービス利用クーポン券(1,000円分)プレゼント
- **3年以上、500株以上保有の株主様**
当社フォトブック等プリントサービス利用クーポン券(4,000円分)プレゼント

※対象の株主様に同封しています



継続保有について

- 株主名簿上の登録日から割当基準日まで、同一株主番号にて連続して株主名簿に記載されていること
- 貸株サービス、相続、贈与、株主名簿からの除籍などにより株主番号が変更になった場合、その直後の基準日から起算いたします。
- 株主番号の変更の有無については、株式をお預けの証券会社にお問い合わせください。

IRカレンダー



株主通信バックナンバー

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/fujifilm-news.html>



メール配信サービスのご案内

当社の最新情報を電子メールで配信するサービスです。ぜひご登録ください。

ご登録はこちらから
<https://www.magicalir.net/4901/mail/index.php>



単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求 100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

60株

当社に市場価格で売却

60株

現金化

買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、市場で売却できる単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

60株

+ 40株を当社から市場価格で購入

40株

= 単元株式 (100株)

配当金の「口座振込」について

配当金のお受け取りには、安全・確実・便利な「口座振込」をおすすめします。口座振込のお受け取りは、つぎの3つからお選びいただけます。

① 株式数比例配分方式

お取引の証券会社の証券口座で、お受け取りいただく方式
(証券会社に口座がない株主様は、ご利用いただけません。)

② 登録配当金受領口座方式

ご所有の全銘柄を、1つの銀行等の預金口座で一括して、お受け取りいただく方式
(ゆうちょ銀行の口座は、ご指定いただけません。)

③ 個別銘柄指定方式

ご所有の銘柄ごとに、銀行等の預金口座を指定し、お受け取りいただく方式。

配当金のお受け取り・各種株式に関する手続きのお申し出先

- ① 証券会社口座にある株式 ⇒ お取引先の証券会社
- ② 特別口座にある株式 ⇒ 三井住友信託銀行
(※下記までお問い合わせください。)

三井住友信託銀行 証券代行部

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>



FUJIFILM

富士フイルムホールディングス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号
<https://holdings.fujifilm.com>

